

再び、備後落合駅に戻るが、この辺の駅名は「備後」が多く、行ったり来たりするのでまるで、「オセロ ゲーム」のように思い、ここは備後であるので「ビンゴ ゲーム」でもしている気がした。

しかし、上下駅はあるもの左右駅、斜め駅がなく、遂に「ビンゴ」にはならなかった。

「ビンゴ」になるまで待つが、それでも次の発車までの時間は 9:17 と 1 時間以上もあった。

誰もいない駅 ホーム で、以前多くの客で賑わっていた頃を思い出し寂しさを隠しきれなかった。

空を見ると蝉が真夏の青空で大きな声で鳴き、サン、サン(Sun、Sun)と太陽が輝き、天気は最高に気付き洗濯物を干すのに絶好であった。

この夏のうち最も暑い時期であり、正に、“九夏三伏”であった。

昨夜も洗濯したが、室内では乾かず少しばかり重く感じられた。

洗濯物は濡れていると重く大変な重量でもある。

幸いに駅は無人駅で誰 1人 いないのであった。

ホーム に駅弁のひもを張り昨夜の洗濯物を乾した。

駅弁のヒモ が今日も役に立つのであった。

正に、“ヒモ じい時にまずい物なし”である。

いつもは ホテル の室内である

今日は室外で風もあり気温高く、直ぐに着られる程に乾いた。

こんなに早く乾くのであったら、裏厚いシャツ も洗濯すれば良かったと思いながら回文を考えた。

「裏厚いシャツ や シイツ 洗う」で

「うらあつしいしやつやしいつあらう」であった。

この洗濯物を干している様子を見ていた ワンマン の運転手は、横目で笑っていたのが気になった。

多分、妻に逃げられた夫が旅先で洗濯物を干しているように見られた。

若し、ワイシャツ を乾したら “ワイセツ (シャツ)物陳列罪 ” で駅員に叱られると思ったが、運転手さんしかいなかった。

今度は “舌の根も乾かぬうちに ” でなく、“下着も乾かぬうちに ” 余りにも暑かったので持ってきた半ズボン に自分で取り替えることにした。

正に、“ズボン (自分)のことは自分でやる ” 必要があった。

駅の ホーム でズボン を履き替えている姿も “ワイセツ 物陳列準備罪 ” と見られると思ったが、幸いにも運転手さんは見ていなかった。

本当は下着も脱ぎたかったが止め「下着脱ぎ足し」で

「したぎぬぎたし」と回文があったからだ。

下着も脱いだら丸裸であり、“バカ 丸出し ” ならぬ “バカ 丸裸 ” であった。

下着と言っても、そのものズバリ「パンツ」であったが、「パンツ の日」は昨日の 8 月 2 日と過ぎており止めた理由の 1 つでもあった。

